

それぞれの形で社会参加している
「人」をクローズアップ



八街センター 「明日につながるマルシェ in 風の杜ひろば」 出展者

“わたし、柔軟剤やめました”

10年目で新たなテーマ性を持ったマルシェ（中面で紹介）の発案のきっかけとなった手作り作家さんです。今回「わたし、柔軟剤やめました」というテーマをもって出展してくれました。誰にでもわかりやすく伝えたいし、無理なく考えてほしい…という優しいアピール力が魅力です。



★手作り作品は、温かくて癒されるものばかりです。
できる限り接着剤や絵具、ニスなどを使わずに仕上げられています。



「ポーラの地球工房」
星野 愛さん（似顔絵）

Q マルシェに参加したきっかけは？

「化学物質過敏症」で困っている人はマルシェに参加することもできない…そのことに気づいたのが、数年前のアルルカンでの室内マルシェでした。楽しみに来たのですが、入った瞬間の香りがダメだったので残念だなと思いました。それなら、手作りが好きなのでマルシェに参加しながら、少しでも多くの人に、香りで苦しんでいる人がいることを伝えられたら！と思いました。



Q 明日につながった？

マルシェの他の出展者から、「おいをテーマにした紙芝居を一緒につくらないか？」というお誘いがきました。紙芝居を通して、子どもたちにいろいろな“おい”があることに気づいて考えてもらえたら、と賛同しました。でも1人ではできません。人と人がつながることで力を合わせればできます。それに気づいたマルシェでした。紙芝居プロジェクトがスタートしました。

Q これからやってみたいことは？

介護や病気などで外に出られない、生活に制限がある人の手作り作品展示や販売をしたいです。手作りすることで息抜きや気分転換になればうれしいです。

お知らせ

- ◆2/19(土) あみこ八街企画「風の杜ひろばで自然とあそぼう」を開催します。(問い合わせ Tel 043-440-0181 富永)
- ◆千葉市で活動する家計改善支援員を募集しています。(問い合わせ Tel 043-290-8015 平川)
- ◆本誌を会員に送付する際、確定申告のための寄付(会費)の領収証を同封しています。



各センターで人材大募集！
あなたの魅力をお貸ください。

ボ ボランティア 参 参加者 仕 仕事 場 場所利用

【八街センター】 Tel 043-440-0181

- 買い物バス ● 運転手
- 風の杜ひろば ● 草取
- 子育てサロン ● ● 運営スタッフ
- 外国人との交流 ● ● 運営スタッフ
- ケアメンレンジャー(男性介護者のついで) ● ● 運営スタッフ
- 喫茶アルルカン・風のロジ ● ● 活動グループ

【柏センター】 Tel 04-7170-0939

- 街の縁側よって ● 運営スタッフ
- 高齢者施設のために ● 誕生日カードづくり
- 生活支援サービス ● ケア者

【千葉センター】 Tel 043-290-8017

- 地域食堂 ● 調理や運営スタッフ
- 放課後の居場所 ● 運営スタッフ
- 生活支援サービス ● ケア者

☎ 各センターにお問い合わせください



だれもが自分らしく
安心して暮らせる
地域協同社会づくりに
貢献します



コミュニティケア街ねっと

つながる

2022年冬号
vol.49

キーワードは
つながり

特集
Beyond コロナへ

共生する With コロナ から 乗り越える Beyond コロナ へ

～コロナ禍をくぐり抜けた先にある、地域づくりのカタチとは～

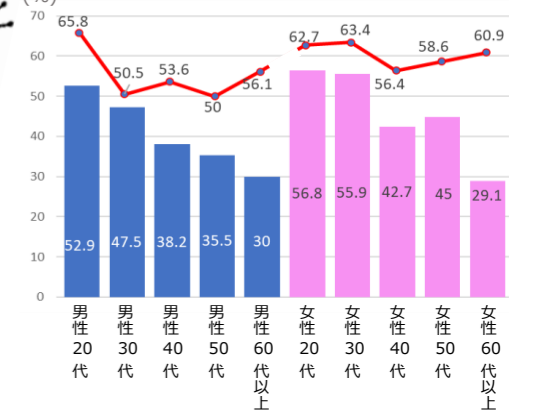
人と会えない、行きたい所に行けない…みなさんの生活はどう変わりましたか？



＜街ねっとスタッフの声＞

毎日の感染者数情報に一喜一憂し、緊急事態宣言等が発出され、私たちの日々の暮らしには制約が増え、良くも悪くも生活様式が大きく変化してきました。野村総合研究所のデータ(右グラフ)によると、このコロナ禍の生活のなかで、男女年代を問わず多くの人が孤独を感じていることがわかります。人と会えない、話ができないという閉塞感も原因のひとつでしょう。

男女年代別孤独の状況



■ 日常において孤独を感じる割合
— 上記のうち新型コロナウイルス流行前と比較して孤独を感じることが増えた割合
出所) NRI「新型コロナウイルス流行に係る生活の変化と孤独に関する調査」

街ねっとは、コロナ禍でも続けられる地域づくりを模索してきました

活動方法の変更とルールの徹底

すぐに各事業の感染対策ガイドラインを策定し、イベントなどの開催や会場貸し出しの人数制限、換気や消毒を徹底しました。地域の人々が集まってテーブルを囲んでいた地域食堂や子ども食堂は、レシピの配布やフードパントリーに形を変えながらつながりを継続し、料理教室では動画配信に挑戦したり、さまざまな工夫をしてきました。子育てリラックス館も緊急事態宣言を機に、予約制を導入して開館を続けました。

困っている人への対応は自粛できない

そんな中、生活支援サービスと家計改善相談は、ウィルスを「持ち込まない」「持ち帰らない」ことに細心の注意を払いながら、相談者、高齢者や産前産後のケアなどを通常通り続けました。その間、ケアスタッフは家族と食卓を囲めない時期もありました。

新しいコミュニケーションの形「リモート」

会議・イベント・友人間など広く活用され、今や大人数での安心安全なコミュニケーションには欠かせません。しかし、デジタル機器に慣れていない高齢の方にはハードルが高く、丁寧なサポートが必要でした。そして、その結果みなさんすっかり慣れて、むしろこのチャレンジが自信となって、今では新しい形で顔を合わせる気軽さを楽しんでいます。

■■■ 感染対策を優先しなければならない中で、すべての活動を続けることはできませんでしたが、私たちがなりに奮闘してきました。そして、今も動いています。

→次ページへ続く



特定非営利活動法人(認定NPO法人)

コミュニティケア街ねっと

【発行責任者: 岩上 章子】

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1107-7
【Tel】043-290-8015【Fax】043-290-8016
【E-mail】info@ccmachinet.jp
【URL】https://www.ccmachinet.com/
2022年1月発行





どんな状況でも、できることを考え、形を変え、あきらめないうで活動をしてきたことが、新しい地域活動へとつながっています



自然とあそぼう (あみいこ八街)

5月は春の自然を探索。夕々の外での企画を楽しみにしていた近隣の子が思う存分自然を楽しみ学びました。11月は秋の自然を探索。のびのびと、胸いっぱい秋の空気を吸い込み宝物探しをしたり、拾った落ち葉をスタンドグラス風に仕立てて楽しみました。次回は2/19。春の足音を探せるか楽しみです。



ヤギ小屋にペイントしよう (あみいこ八街)

「大人も子どもも楽しくアート活動を！」と、大人・子ども計18人が3色のペイント材を混ぜ合わせて、30cm×30cmの板に自由にお絵描き。主を亡くして空き家になった小屋を、綺麗に掃除して色とりどりの絵を壁に貼り、こどもの遊び場に生まれ変わらせます。



明日につながるマルシェin風の杜ひろば (あみいこ八街)

これからの地域作り、そして街ねっとならしいマルシェはどうあればよいか、悩んだ末の5つのテーマ「いのち・自然・癒し・つながり・やさしさ」。賛同した出展者が9つのブースを展開。会場では出展者も来場者もそれぞれのテーマについて話す機会が生まれました。午後はウクレレライブでまったりしたひとときを♪。

大きな空の下で
～八街市風の杜ひろば～



アンチエイジング料理教室 (あみいこ千葉)

一昨年からはZoomを使ったリモート講座として開催しています。初めてのことでしたが、撮影から配信までスタッフも奮闘し、感染のリスクなく継続できました。前半では食にまつわる話を、後半はホットプレートや炊飯器を使った楽ちんレシピで各自料理します。“虹と風のファームの野菜ボックス”を使ったレシピは美味しく好評です。11月には2年ぶりに対面でも開催でき、再会を喜びました。

リモートに
挑戦



医療と終活を考える会 通称IS会 (自主グループ)

参加者約20名で、看取りの話から健康法まで幅広いテーマから選んで取り組んでいます。佐賀医師も参加され、医学的なお話も拝聴することができます。コロナで会の開催継続が危ぶまれた時にも、Zoom 練習会やZoom 飲み会などを盛んに開き、休むことなく仲間同士の交流を楽しんでいます。



街の縁側 よってって (安心システム柏)

活動休止中は、認知症が進んでしまった方と介護者を、ボランティアと一緒に支援しました。自粛が長引く中で、「居場所がほしい!!」の声に、見守りが必要な方などに絞って、公園散歩などのお出かけ企画も開催しています。皆が交代でボランティアとして活躍する和気あいあいの仲間づくりの場です。

地域食堂 (安心システムいなげ)

会場での飲食ができない間、体に優しい食のレシピやおすすめの食材を渡してつながってききましたが、昨年11月から“地域食堂カフェ”と称して再開。美味しいケーキと珈琲を頂きながら、マスク越しの夕々の会話を楽しみ、近況を報告しあう参加者の様子に人とのふれあいの大切さを実感しています。



ずっと
つながり続けて

フードパントリー (安心システム八街)

子ども食堂が開催できず、フードパントリーに形を変えて毎月開催してきました。手作りの美味しさを伝えたいと、季節野菜の炊き込みご飯のおにぎりを食材と一緒に配布しています。これが子どもたちに大好評!このことを通じて、「忙しくてもママやパパが握るおにぎりは栄養と愛情がたっぷりよ」と伝えています。情報収集し、野菜や食材をいただきに車を走らせています。



学習支援、算数教室「単元王」(安心システム柏)

昨年5月に開始予定でしたが、先が見えない中でも講師たちと月1回の打ち合わせをしながら準備を重ね、やっと11月から週2回で開始。現在では、元小学校教諭の講師5名、ボランティア3名と協力者も増え、約11名の子どもたちがガンバっています。



待ちわびて
始動

子育てサロン (安心システム八街)

「オンラインも良いけど、やっぱり顔見て話したい」と、今年度はリアル開催としています。ママたちはスタッフの顔を見て日常の悩みや不安やグチを言い合い、少しスッキリして帰ります。参加者もスタッフもPCの画面では伝わらない肌感覚を大切にしたい。コロナ禍を経験したからこそ気づいたことです。



光ヶ丘サロン「座ってできる簡単ヨガ」(安心システム柏)

講師も参加者も首を長くして待っていました。とても楽しそう。お友だちを誘ったり、ボランティアを申し出る方も多く、つながりが切れないうちに、訪問やおたよりを送ってきた気持ちが伝わっていると感じています。



始動から3ヶ月! C's コミュニティ 追っかけレポート!

障害者就労継続支援事業B型が始まっています

まだまだ利用者は少ないながら、日々仕事を“創出”しています。11月からはお弁当の店頭販売も開始しています。

お弁当店頭販売



作業の様子

菓子を作り、袋詰め、プチギフトも予約受付中



カフエ使用布巾の煮沸消毒



カフエのランブルケーキ使用のリンゴ煮

利用者の声

Aさん(60歳代女性)
電話で娘と話した時に「最近滑舌が良くなったんじゃない?」と言われました。ここに来て毎日おしゃべりするようになったからかな。

Bさん(30歳代女性)
サンドイッチを切ったり、おにぎりに海苔を巻いたりしています。店頭販売でお弁当が売れると嬉しいです。

Cさん(50歳代男性)
家ではすることがなくて退屈な毎日でしたが、ここではみんなと楽しくやっています。

利用者と地域ニーズに合わせて

これからも利用者個々に合わせた仕事をどんどん創出します。利用者にスタッフが同伴してお弁当を配達するだけでなく、地域の高齢者に見守り活動も兼ねた「見守り弁当配達」も計画中です。

★これからの活動はHPをご覧ください→

